



# ミスショットであるかどうかの判断は、プレーヤー自身が決めます!!



前は、ナイスショットの再現性を取り上げました。今回はミスショットの定義に関する考え方を考察します。実はミスショットかどうかの判断基準は自分で決めれば良いのです。多少乱暴な言い方をすれば、全てのショットが想定内であれば、全てのショットはミスショットではなく、ナイスショットとなります。では想定内とはどのような事を言うのでしょうか、以下、わかり易く説明させて頂きます。

1. 初心者の場合：ボールに当たればナイスショット。空振りや直角にシャンクになればミスショットと呼べると思えます。従って、初心者とのラウンドでは、ボールにヒットさえ出来れば、ほとんどがナイスショットになります。

2. ハンディ36の場合：ダブルボギー中心のラウンドとなります。従って、18Hのラウンドで、OB 2回、3パット3回、林の中は4回程度のショットは想定しているので、それらの想定内のトラブルショットはミスショットではありません。ミスショットは3回目のOB、4回目の3パット、6回目の林へのショットはミスショットと呼べると思えます。

3. ハンディ18の場合：上記の約半分ですね。従って、18ホールで、1回のOB、2回程度の3パット、2回程度の林

へのショットは想定内ですので、その基準以内であればミスショットとは呼びません。

4. シングル級の場合：同じシングルでもハンディ1と9とでは違いますが、同じように考えると、ミドルホールでは1回のミスショットでもPARは取れますし、ロングホールでは2回程度のミスショットでもPARは取れる可能性があります。要は、そのショットが、想定内の範囲内なのか、若しくは想定外なのかが重要なのです。

5. プロの場合：ショットの評価は各自で違っていると思われれます。TVで見ても、グリーンに乗ったショットでも相当に悔しがっているケースも多いですよ。バンカーに入っても深いラフよりは打ちやすいので、平然としている場合は、ミスショットとは認識していないようです。イメージ通りかどうかは、あくまでも個人の想定基準がベースになります。

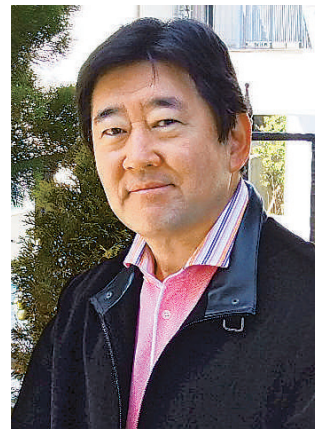
以上のように、実は、ナイスショットでもミスショットでも、その判断は、プレーヤーの実力に応じた考え方次第なのです。【身の文】の話は第2話でしたが、そのプレーヤーの身の丈レベルの認識で判断すれば良いのです。

オールドマンPARの話も第3話で説

明しましたが、ゴルフと言うスポーツは自分が設定したPARを基準に、スコアで最終評価にするわけですから、一打一打のショットに一喜一憂する事そのこと自体が、実はメンタルマネジメントのミス判断なのです。ゴルフがメンタルのゲームと呼ばれているのでは、そのような側面を指摘しているのではないのでしょうか？

ゴルフは、プレーヤーでもあり、コーチでもあり、審判の一人3役をします。加えて、ショットの判断には相対的な判断はないのですから、ショットの絶対的な判断も自分一人の基準で判断することになります。何と、面白いゲームと思いませんか！自分に有利に判断してもペナルティーは絶対に科せられません。自分に都合よく、想定内の範囲を拡大して想定しさえすれば、結果としてはストレスの無い楽しいラウンドが出来ます。当然、スコアも向上できると確信します

結論：ショットの判断は自分の絶対基準である以上、ナイスショットもミスショットも考え方次第です。心理学では、【論理療法】と言います。物事の事実の評価は、考え方次第であり、どのようにも評価できることを知っておいてください。



## 村瀬雅宣

(むらせ・まさのぶ)

1977年一橋大学卒。同年4月東京海上火災保険入社。92年同新潟南支社長、2004年福岡久留米支社長、08年日鉄保険サービス出向。

現在は日鉄住金保険サービス 企業リスクコンサルティング部長

ゴルフキャリア (ハンディキャップ：JGA 3.0)

一橋大学体育会ゴルフ部キャプテン。東京海上火災保険ゴルフ部キャプテン。全国社会人企業対抗戦代表選手(約10年間)。全三菱ゴルフクラブ常任理事。首都大学東京ゴルフマネジメント講座講師。ゴルフレッスンコミック(コーキューシュッセ)連載中。メンタルトレーナー。一橋大学体育会ゴルフ部コーチ

http://www.nobugolf.com